

令和2年度

事業報告

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

社会福祉法人 秩父市社会福祉事業団

総務課 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
事業の発展、充実、拡大に努めます。	新施設「にじいろテラス」の開設に向けて、建設工事、駐車場整備、指定申請、備品購入等を進めます。	新施設「にじいろテラス」の開設については、現場事務所で毎週行われる工程会議に最後まで出席し、設計・施工業者と最終段階の打ち合わせを行い、工事進捗状況や仕上げ等の確認を行いました。また、事業団内部でも、にじいろテラス準備担当者会議を開催し、備品の購入、人員配置や指定申請事務等を遂行しました。埼玉県福祉監査課による中間時検査及び完成時検査、消防検査、建築・設計現場確認検査を経て、滞りなく、建物の引き渡しを受けました。利用者や地域、関係機関に向けた内覧会や開所通知、開所セレモニーを事業団全体で執り行い、情報発信に努めました。
	「星の子教室」、「ふぁいん・ユー」の事業移管については、職員採用、備品等の移譲、事務手続きを秩父市と協議しながら進めます。また、利用者・ご家族・関係機関に十分な説明を行い、理解と協力が得られるように努めます。	
	秩父市の指定管理施設は、運営状況の確認、評価を適切に行い、質の高いサービスの提供に努めます。	
	防災マニュアルに基づき、災害時の備えを行い、必要な業務が継続できるよう危機管理体制の向上を図ります。また、利用者、職員の安全を守る防犯体制を確立します。	
	事業団の事業をより多くの方に知っていただくよう、広報誌、ホームページやパンフレットを利用して様々な情報を発信します。	
地域共生社会の実現に向け、地域貢献活動を積極的にを行います。	高齢者や障がい者の特性理解を深めるために、今までに培った経験や専門的知識を地域へ発信します。	公益的な取り組みについては、新型コロナウイルス感染症対策により、活動は自粛しましたが、再開に向けた取り組みの検討を重ねました。 県福祉、秩父保健所による、新型コロナウイルスに関する施設内感染対策実地支援の指導を仰ぎ、法人全体で周知できるよう努めました。法人全体でクラスター対策会議を開催し、環境整備、防護具、非接触型体温測定器導入等の検討を行いました。また、利用者・職員のPCR検査の実施、ワクチン接種に備えた準備を行いました。
	地元町内会や民生委員と連携し、地域の状況を把握しながら見守り活動を進めます。	
	生活困窮世帯等、複合的な課題を抱える世帯の相談に応じ、地域での生活を支えます。	
	地域との連携を強化し、町内会活動の参加や交流を積極的に行います。	
	災害時には福祉避難所としての機能を発揮できるよう、秩父市や近隣施設等と協力を図ります。	

事務手続きを適正に行い、透明性のある経営を行います。	施設整備に係る補助金、建築費、備品購入費等を予算計上し、適切な会計処理を行います。また、公益事業から社会福祉事業へ移管となる「ふあいん・ユウ」については、適切な資産処理を行います。	新施設整備による補助金を国・県・市町村より受給し、会計処理を行いました。また、建築関係、備品購入に係る固定資産、消耗品等の支出についても各事業所より適切に会計処理を行いました。
	法人全体の経費削減に向けて、定期的に予算の執行状況の確認、報告、提案を行います。	助成金に関しては、特定求職者雇用開発助成金、キャリアアップ助成金等の申請を行いました。
	各種助成金の活用を積極的に行い、事業運営の安定に努めます。	新型コロナウイルス感染症対応に伴う職員慰労金、感染症対策や環境整備に対応するための補助金申請を行いました。
職員の採用、定着を図り、人材育成に努めます。	新施設「にじいろテラス」の開設、既存事業の充実のため、介護職、保育士等の採用に努めます。そのために、ハローワーク、各種学校とこれまで以上に密な連携を図ります。	時節柄、学校訪問に替えて、大学、専門学校への連絡、募集案内の送付を就職活動のタイミングを見計らい複数回行いました。継続して、市報への掲載、ハローワークとの連携により求人活動を実施しました。にじいろテラスの看板掲示も効果が見られ、幅広く情報発信を図りました。
	働き方改革関連法の改正に伴ない、職員が安心して働くことのできる職場環境づくりを推進します。	星の子教室の保育士も含め、正職7名、26名のパート職員の採用に繋がりました。
	個々の専門性を向上させるため、職員の資格取得に対する支援を行います。	
建物及び設備等の適正な管理、見直しを行います。	省エネに対する取り組みを推進し、環境面に配慮した設備の選定を行います。	空冷ヒートポンプチャラーの運用について、設置後1年を振り返り、設定温度を調整しながら省エネ運転を図りました。
	老朽化している設備に関して、修繕及び機器更新を計画的に行います。また、施設に関する大規模改修工事については、秩父市と協議を重ね補助金や積立金の活用を検討します。	合併浄化槽の入れ替えについて、現状の課題を整理しながら秩父市や関係機関と協議を重ねました。ナースコール、入浴機器、厨房設備等、老朽化している大規模設備の状態の把握、計画的な修繕の検討を図りました。

秩父市特別養護老人ホーム偕楽苑
 秩父市特別養護老人ホーム偕楽苑 短期入所

事業報告
 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
一人ひとり誰もが生きがいを感じ、笑顔あふれる暮らしの場を利用者と共に創造します。	利用者自治会(なかよし会)において、生活の希望や生活課題への意見を受け止め、利用者の思いに添った暮らしを実現します。	なかよし会の開催等を通じ、利用者一人ひとりの希望を受け止め、苑内でのレクリエーション活動に取り組みました。
	行事、レクリエーションや趣味活動等に取り組み、生きがいづくりを行います。	例年参加していた地域の祭事が軒並み中止となり、新型コロナウイルス感染症予防対策から外出もままならない状況でありましたが、映画鑑賞会、球技大会、星をみる会、野球大討論会、お月見、運動会、作品展、食事会、忘年会、コンサート、新年会など施設内で楽しめる行事を中心に実施しました。
	利用者一人ひとりの特技を活かしての活動や、利用者の支え合い等を支援し、主体的な暮らしの場を実現します。	
個人史や人と人との繋がりを尊び、ご家族や地域との関係を大切にする事で、地域社会の一員としての暮らしを実現します。	広報誌の発行、フェイスブックの活用、日々の暮らしの写真の掲示等により、施設での暮らしを発信することで、ご家族や地域の方にとって施設が身近なものとなるよう取り組みます。	広報誌「ほのぼののだより」、フェイスブック等を通じ、日々の様々な取組みを発信することで、施設の様子をご家族はもちろん関係者以外の方にも幅広く知ってもらうことができました。
	ほのぼの祭りや食事会など、様々な行事にご家族に参加いただき、家族関係を深めると共に、ご家族の協力のもと施設生活の充実に取り組みます。	例年であれば、ほのぼの祭り、ほのぼの感謝祭などを通じて、ご家族との交流の中から家族関係を深めることができましたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、開催ができませんでした。しかし、ご家族との連絡を密にとり、感染予防対策をきちんとした上での面会を通じて、結果として家族関係を深めることに繋がりました。また、今後は徐々に地域で行われる行事へ参加していき、地域とのつながりが回復できるよう検討しました。
	利用者、またその家族の希望に寄り添い、外出・外泊の支援や地域行事への参加等を行うことで、新たな出会いや地域との繋がりが構築できるよう取り組みます。	
生活困難者等への支援において、迅速かつ適切に対応することで施設機能を最大限、地域に還元します。	秩父市をはじめとした行政機関や包括支援センター等との連携を密接に持ち、虐待等の緊急ケースに迅速に対応します。	行政機関やケアマネジャーから、緊急的に在宅生活が困難となったケースを複数受け入れました。また、徘徊等のある重度認知症者や褥瘡処置等の医療ニーズの高い利用者も受け入れました。
	重度認知症者や医療ニーズのあるケースについても積極的に受け入れます。	
	特養入所利用率97%以上、短期入所利用率95%以上を実現します。	特養入所利用率94.4%、短期入所利用率96.5%でした。
専門機関、専門職としての誇りを持ち、組織として研鑽を積み、謙虚に実践の向上に努めます。	職員間の意見交換を活発に行うことで、一人ひとりの思いを実践の中に活かし、各人のやりがいを高揚し、組織として研鑽を深めます。	誕生日会や食に関する行事を実施し、お茶漬けビュッフェ、ラーメン作り、柏餅作り、おはぎ作り、餃子作り、焼き鳥パーティーやうどんのつけ汁セレクト、寿司セレクト、クレープパーティー等を実施し、食べることの喜びを感じていただきました。
	認知症の専門研修、人権擁護、事故防止、感染症に関する研修等を行うことで、知識の共有と深化をはかり、職員の資質向上に取り組めます。また、資格取得に向けての気運を醸成し支援します。	新人研修、褥瘡防止研修、リスクマネジメント研修、感染症対策研修、虐待防止研修、身体拘束防止研修、看取り研修、喀痰吸引研修、認知症専門研修を行い、専門的知識を深めました。また、委員会や係の活動を通じて、職員一人ひとりが責任とやりがいを持って業務と処遇改善に取り組みました。
	嘱託医との連携を適切に行います。また、日々の健康観察を行い、その情報を共有しケアを実践することで健康増進に努めます。	嘱託医や協力病院と密接に連携し、利用者の健康維持に努めました。
	定期的な歯科往診と歯科衛生士の指導・助言に基づき、口腔ケアに取り組むことで健康づくりにつなげます。	

苑内美化やさわやかな空間づくりに取り組み、心地よく生活できる環境を実現します。また、個別の身体状況等に応じ生活環境を整えることで、安全な暮らしの場を実現します。	定期的には大掃除を位置づけ、苑内の美化に取り組みました。また、空気加湿清浄機の導入やこまめな換気、施設内の消毒に取り組むなど、生活環境の改善と感染防止対策に努めました。様々な取り組みを通して、生活環境整備に対する職員の意識を啓発しました。
食べることの喜びが感じられるよう、ゆったりとした食事場面をつくります。また、一人ひとりの嗜好や食事摂取状況にあった食事提供を行い、食生活の充実に努めます。	
グループでのゆったりとした入浴場面の提供や個別性を重視した快適な排泄環境を整えることで、安楽な生活が送れるよう取り組みます。	
他職種連携のもと個別機能訓練計画に基づいたリハビリを実践することで、身体機能を維持し、安全に可能な限り自立した生活が送れるよう取り組みます。	

秩父市立養護老人ホーム長寿荘 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者の自主的な生活が営めるよう自己決定を尊重し、自立支援に向けた取り組みを行います。また、ご家族や地域との繋がりを大切にし、地域社会の一員としての暮らしを実現します。	利用者の思いやそのおかれた状況を鑑みて、明るく家庭的な雰囲気の施設生活を通して、その人らしい生活の実現に努めます。	自立支援に向けた取り組みとして、入所者と個別面談を行い、本人が望んでいること、できることを再確認し、個別支援計画に活かしました。
	自治会議の開催を通じ、利用者の声に耳を傾けることで、その声を行事やレクリエーション、趣味活動等に反映します。利用者個々の身体状況に応じ、少人数でのグループ外出や県外への宿泊旅行など、画一的にならない外出支援、社会参加に取り組みます。	身寄りのいない方の葬儀に関すること、債務整理に関することなどを行政や法テラスと協力して行いました。
	広報誌の発行や、日頃の生活状況の報告、相談の実施等により、ご家族との繋がりが深まるよう努めます。	新型コロナウイルス感染症対策による外出制限の中、地元商店のカatalog販売や出張菓子販売、弁当の取り寄せ等を依頼し、外出しなくても楽しく過ごせる生きがい作りに取り組みました。
	地元町内の地域活動への参加を維持し、利用者が地域の一員として生きがいを持てるよう支援するとともに、地域貢献事業の発展に努めます。	また、理髪については、外出や理髪ボランティアが利用できない中、職員が協力して理髪や髪染めを行うなど、出来る限り利用者の要望に応えられるよう努めました。
	利用者の施設内作業を促進し、働くことの喜びと共同生活の喜びを感じることできるよう支援します。	
専門機関・専門職として、研鑽を積み、改善改革に取り組む、質の高いサービスを提供します。	職員間、職種間の情報共有と意見交換により、その人らしさを尊重した支援をチームで実践することで、質の高いケアの実現に努めます。	委員会活動や各種研修は、新型コロナウイルス感染症対策により、縮小ながらも、他部署との合同開催により、実施しました。
	小さな体調変化をしっかりと観察し、嘱託医を中心とした医療機関との連携を深めることで、利用者の皆様がいつまでも元気に過ごせるよう、健康管理に努めます。	養護老人ホームでの医療ニーズの高まっている現状に対して、嘱託医を中心に、秩父郡市外の各専門医療機関と連携を図り、医療が必要になっても安心して生活が送れる環境作りを行いました。
	身体状況の把握、生活環境の整備、事故防止策の分析などに取り組み、安心で安全な生活の場を構築します。	
	要介護者が必要なサービスを利用できるよう関係機関と協力し、住み慣れた施設での生活が維持できるよう支援します。	リハビリ、入浴等を目的とした介護保険サービス(デイサービス)を利用することで、気分転換や施設生活の維持が図れるよう支援しました。
	退所後も安心して生活を送るため、身体状況に応じたサービスを受けられるよう、関係機関と連携を図ります。	
	多様で幅広いニーズに対応できるよう、介護保険施設の利用なども含め、多角的な視点から適切なサービスの提供を行っていきけるよう努めます。	触法者の入所受け入れについては、家族や関係機関と密に連携を図り、本人の意向に寄り添いながら、地域における施設機能を発揮しました。

全職員で現状課題を把握し、健全な施設運営を図ります。	入所利用率98%を目標とし、安定した運営を図ります。	職員全体でコスト意識を持ち、無駄のない物品購入や節電を心掛け、適切な事業運営を行うことが出来ました。 秩父市をはじめ、入所措置機関と連携を図り、環境的、経済的に課題のある方や虐待等の困難ケースの受け入れを積極的に行い、年間の入所利用率は99%でした。また、緊急的なケースの受け入れなど、措置機関の要請に柔軟に対応することで、施設に求められる役割を發揮することができました。
	諸経費のコスト削減に努め、適切な事業運営を図ります。	
	秩父市をはじめ、入所措置機関と円滑かつ速やかな連携に努め、経済的および環境的な理由による生活困窮者等に対する社会資源として地域社会に貢献します。	

蒔田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
地域と共に歩むデイサービスを目指し、利用者が、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせるよう支援します。	利用者が可能な限り、自宅で自立した生活が送れるよう、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関、家族等と密に連携し、支え合いながら支援していきます。	ご本人の意思を尊重しながら、自宅での自立生活を支える為、多職種や家族との連携を大切にした支援が実施出来ました。
	自らが、介護資源の一つとして、またその他の地域資源も活用し、より多くの方々に利用して頂けるようサービスの提供に努めます。	
	広報誌・フェイスブック等で広く活動内容を情報発信し、地域に根付いたデイサービスを目指します。	
	外出行事等の社会参加を通じて、身体機能、生活機能の維持向上を図ります。	
利用者のニーズを把握すると共に、職員の専門的知識・技術を深め、人材育成を図り、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	毎月のミーティングや毎日の申し送りの中で、利用者の情報共有やニーズを確認し合い、利用者一人ひとりに寄り添った支援を行います。	毎月のミーティングでは、情報交換や支援内容を確認し、統一したサービス提供に努めました。毎日の申し送りや業務の中では、「ほうれんそう」の重要性を再認識し、徹底するよう努めました。
	外部・内部研修へ積極的に参加し、多職種との交流を深め、専門的な知識や技術の習得に努めます。	新型コロナウイルス感染症予防の為、研修の開催や参加は出来ませんでした。紙面やDVDの視聴での研修を行い、知識習得に注力しました。
	安全で快適な職場環境を目指し、自己啓発しやすい体制作りの中で、職員のメンタルヘルスの維持を図ります。	個々の意見を大切にし、定期的に対話の時間を作り、職員のメンタルヘルスの維持を図りました。調和の部分で働きかけが必要なケースは、上司とも相談しながら、全体でフォローできる環境作りに努めました。
	職員の個々にあった人材育成を図り、統一したケアや質の高いサービス提供に努めます。また資格取得に向けた支援体制を充実させることで、意識・資質向上を目指します。	質の高いサービス提供を目指し、職員への技術だけでなく接遇面においての人材育成も実施しました。また、介護に関する資格取得を支援することで、スキルアップにつなげることが出来ました。
積極的に利用者の受け入れを行い、安定した施設の運営を行います。	事業所の稼働状況を把握し、利用率の向上(目標80%)を目指し、適正な収入確保に努めます。	入院者や終了者が多い中、目標値を目指して新規受け入れを積極的に行いました。
	理学療法士による専門的なりハビリの実施と、充実した看護体制により、医療ニーズの高い方や重度の方など困難ケース等にも柔軟に対応し、積極的受入れを行います。	理学療法士による専門的なりハビリが、介護支援専門員にも周知され、新規の紹介へ繋がりました。
	業務の効率化を図るため、マニュアルを整備し、職員一人ひとりがコスト意識を持ち、環境にも配慮した運営を目指します。	業務の効率化を図りつつ新型コロナウイルス感染症予防に努めました。その中で、一人ひとりへコスト意識を呼びかけ、安定した施設運営に取り組みました。
	安心・安全なサービス提供を目指し、日々業務の中で事故防止に努め、安定した施設運営に取り組めます。	

秩父市ヘルパーステーション 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
在宅での生活を継続できるよう利用者の自立度や障がい特性に合わせたサービスが提供できるよう、職員の資質向上を図ります。	医療・福祉・介護等に関する外部研修への参加、新規職員研修として特養・デイサービスでの実務研修を実施し、職員のスキルアップを図ります。	新型コロナウイルス感染症の影響で外部研修に参加できない事やミーティングについても限定された内容での開催となってしまいましたが、月1回はヘルパーが集まる機会を作り情報共有やケア内容の統一の場を設けました。ヘルパー同士でコミュニケーションを図り、利用者に対して質の良いサービスを提供できるよう努めました。
	月1回のミーティングを開催し、利用者の情報共有、支援内容の確認、事例検討・職員研修の実施、報告・連絡・相談の場とします。	
	介護福祉士等の国家資格や障がい者支援に関連する資格取得をサポートし、事業団の専門機能を高めます。	
利用者及び利用者家族や地域との連携を深め、地域に根付いた事業所を目指します。	関係機関との情報交換等を行い、連携を強化することで、発生する課題に対し迅速な対応を行います。	関係機関との連携を深めるためにコミュニケーションを密に図り、利用者の課題に対し迅速に対応しました。サービス提供責任者による利用者宅訪問や各ヘルパーとの情報共有を積極的に行い、利用者の現状把握に努め、適切な支援が提供できるよう働きかけました。
	利用者及び家族に対し支援内容を解りやすく丁寧に説明し、意向や希望を尊重した支援を行います。	
	利用者・家族等へ様々な情報を発信できるよう、自宅訪問の際に適切な情報提供と、必要に応じてケアマネージャーや関係機関の情報提供を行います。	
高齢者及び障がい者の積極的な利用受け入れを行い、安定した事業所の運営を行います。	支援困難・緊急なケースを積極的に受け入れるため、事業所に滞在するヘルパーを配置し迅速な対応を行います。	居宅介護支援事業所、障がい者支援センターや地域包括支援センターと良好な関係を構築し、積極的に新規利用者の受け入れを行いました。施設入所や入院等の終了者も多い中、平均130名の利用者を訪問しました。
	訪問者数の増加(目標135名)を図ります。	

秩父市社会福祉事業団居宅介護支援事業所 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村・包括支援センター及び医療機関との連携を全職員で深め、積極的に新規利用者の受入れを行います。また、市町村からの委託業務等も継続的にを行います。	困難ケースや緊急ケースの受け入れを積極的に行い、各個人がその人らしい生活が送れるように支援します。	8名体制となり公的機関や医療機関、直接家族からの相談など多くの依頼を受けることができました。 コロナ禍において認定調査、認定審査会については依頼件数や回数が減少しましたが、市町村や関係機関からの情報収集を行い連携を図りました。 市町村や包括支援センターから相談を受けた困難ケースに関しても、必要な情報交換を行いながら協力して受入れを行いました。
	年間を通して月225件以上の支援者数を維持します。	
	介護保険委託業務の認定調査を実施します。	
	『介護予防・日常生活支援総合事業』の委託受け入れを積極的に行います。	
	認定審査会への出席を継続して行います。	
専門的な知識を深め、ケースワークの技術を更に高めることで、個人の生活の質が向上できるような支援を行います。主任介護支援専門員の更新研修へ参加し資格要件を維持します。	市町村及び各包括支援センター、医療機関や介護保険事業所との情報交換を行い、更なる連携強化を図ります。	レベル・スキルアップに関する研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響から開催がなく、参加することが出来ませんでした。が、他事業所との事例検討会をリモート形式で実施することができました。
	地域サービスや新規事業所、インフォーマルサービスの把握を行うことで、ケースワークの質を高めます。	
	介護支援専門員更新研修及び主任介護支援専門員更新研修、県・市町村・各事業所の主催する研修へ積極的に参加し、専門的知識の向上に努めます。	
	「特定事業所加算Ⅱ」の算定を継続できるよう、算定要件を理解し、体制・支援内容等の維持や変更を行います。	
	計画的な研修計画を介護支援専門員へ実施します。	
平成30年度介護保険制度改正の内容を把握し、利用者の抱えるニーズに合わせた支援を行っていきます。	他の居宅介護支援事業所との交流を深めケース会議や事例検討会を開催することで、マネジメント力を高めます。	困難ケースや山間地域の受け入れも積極的に行い、関係機関と協力し継続して支援しました。 地域ケア会議の開催はありませんでしたが、秩父圏域ケア連携会議主催の、リモート研修には各自で参加し、情報の把握に努めました。 令和3年度の法改正に関して、国や県からの情報をもとに、職員間で情報共有を行い、改正に対する準備に努めました。
	包括支援センター等から依頼された困難ケース等の事例にも積極的に受け入れを行います。	
	「運営基準減算」や「特定事業所集中減算」等の適用を受けないよう適正な事業運営を継続します。	
	法改正及び報酬改定を理解し、利用者のニーズに合わせたサービス利用ができるよう支援します。	
	「地域ケア会議」「各包括支援センター主催の研修や勉強会」へ参加します。	

秩父市高篠デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者一人ひとりが、それぞれの持てる力を活かしながら、住みなれた地域で安心して生活できるよう支援します。	利用者が安心して在宅生活が継続できるよう、地域、医療、介護といった他職種連携による「チームケア」で支援します。	利用者の身体状況、ご家族の予定や都合に合わせて、利用日の変更や送迎時間を3段階に分け、送迎時間の調整、利用日の追加など柔軟な対応を行いました。 また、新型コロナウイルス感染症の予防を行いつつ、利用者を持っている知識や経験をレクリエーションに取り入れ、役割を持って参加できる環境を作りました。人とのつながりを大切にし、集団での活動の機会も提供しました。
	利用者が持つ豊かな経験と知識、技能を活かせるような環境を整備します。	
	利用者が望む場所での生活を継続していくために、身体状況や家族の変化に対応しながら支援します。	
多様化する利用者ニーズに応えられるよう、福祉サービスの提供体制の充実を図り事業を展開していきます。	困難ケースの積極的な受け入れ、また多様化するニーズにも柔軟な受け入れが出来るよう努めます。	独居の高齢者や医療ニーズ、難病指定の方の利用日調整を行い、多様化するニーズに柔軟な受け入れが出来るよう努めました。 また、利用者一人ひとりの希望に添えるよう、個別に意見を聞きながら対応を行いました。
	利用者一人ひとりに、きめ細かな支援を行えるよう、介護保険などフォーマルなサービスだけでなく、ボランティア等の協力を得ていきます。	
	上質なサービスを安定的に供給するため収入の確保と、できる限りのコスト削減に努めます。	
人材育成に努め、利用者のニーズを把握するとともに、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	職員の資質の向上に資するため、年間計画に基づいて、職員対象の研修を積極的に行います。	チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指し、年間計画を立案しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、研修など思うように行えない状況となりました。そんな中でも、感染症の知識などを中心に書面や動画による研修の機会を確保するなど、個々のスキルアップ、感染拡大の防止につながる研修が開催できました。また、新規職員に対しては、基礎研修を行い資質向上に努めました。
	職員それぞれの立場にあったスキルアップ・モラルアップ・モチベーションアップを図り、チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指します。	
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行ないやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制の充実に努めます。	
地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地域行事へ積極的に参加する機会を設け、地域との交流を深めます。	地域特性を活かしつつ、学校や学生ならびに地域ボランティアの受け入れを積極的に行います。	地域交流については、例年実施していた高篠小学校、永田保育所、その他各種慰問については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全て中止となりました。感染が拡大する中、6月に高篠小学校ののめ学級の生徒より、手作りのフェイスガードを寄贈していただきました。
	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、在宅支援の役割を担います。	
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	

秩父市上吉田デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の実績	主な事業の実績
共通の課題認識をもち全職員で施設運営に参画します。	日々の光熱水費の使用状況を把握し、節電・節水に努めます。必要物品について検討し諸経費等のコスト削減を図ります。	令和2年度の延べ利用者数は4900人、1日平均は15.8人で、利用率87.8%でした。積極的な利用受け入れ、希望が集中した際の利用日調整等を行い、概ね85～90%の利用率を維持できました。フェイスブックの更新を行い、定期的な情報発信に努めました。施設の情報だけでなく、吉田地区の自然風物等の紹介も行い、地域のアピールに努めました。
	制度の正確な把握と利用率の維持に努めます。	
	広報誌やホームページを活用した積極的な広報活動を行います。また、ケアマネージャーへのアプローチを積極的に行い、利用率の向上を図ります。	
支援困難事例や重度の利用者の受け入れを積極的に行い専門職として質の高いサービスを提供します。	コミュニケーション技術、介護技術を習得し、職員一人ひとりのスキルアップを図ります。様々な利用者への支援が的確に行えるよう体制を整えます。	8月、3月に防災避難訓練を行い、大きな地震発生時の対応と火災発生時の避難誘導の訓練を行いました。3月に防犯研修を行い、特殊詐欺への備えや管内の事故や犯罪の状況を共有しました。毎月のミーティングで利用者カンファレンスを実施し、課題の把握と改善策の検討を行いました。
	緊急時の対応、事故防止、認知症についての研修を実施し、職員の資質の向上を図り、利用者に安心、安全なサービスを提供します。	
	月1回、ミーティングを実施し、利用者の状況や事業所内での課題を検討し、事業所全体のサービスの質を高めます。	
近隣の地域の人との関係を構築していきます。地域に密着したデイサービスを実現します。	地域住民から寄せられる介護相談等に対応し、地域住民が安心して在宅生活が継続できるよう地域に密着した支援をします。	新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた地域行事への参加が困難となることが多く、本格的な交流事業は概ね見合わせる状況となりましたが、開催されたよした文化祭には例年通り、創作作品の出展を行いました。近隣地域への外出行事として、吉田石間地区、小鹿野倉尾地区、三田川地区へのドライブを行いました。
	近隣の吉田地域行事や小鹿野方面への外出を実施し、地域との交流、つながりが深められるよう支援します。	
その人らしさを大切にし幸せを感じる事ができるようなデイサービスを全職員で創造します。	全職員でレクリエーション活動を考え作業分担などを協力して行い、利用者のQOLの向上に努めます。	新型コロナウイルス感染症の影響で、各種ボランティアの受け入れや世代間交流活動は実施できませんでしたが、ハロウィンパーティー、新年の絵馬づくりなど、新しいレク活動を取り入れました。
	利用者の個別ニーズに合わせた外出やレクリエーションを実施することにより個別支援の充実を図ります。	
	ボランティア、慰問の受け入れを積極的に行い地域、世代間の交流を深めていきます。	

秩父市立上吉田高齢者生活支援ハウス 吉祥苑 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
高齢者生活支援ハウスに求められる役割を自覚し、地域福祉の発展と向上に貢献します。	秩父市(吉田・荒川大滝含む)包括支援センター、居宅介護支援事業所などの関係機関と連携し、入居等の相談、緊急入居事例等に速やかに対応します。	入居者の動向は、入居者2名、退去者4名となりました。年間を通じてほぼ満床を維持しました。秩父市と連携を図り、入居待機者を把握しながら、円滑な入居が進められるよう適切な運営を図りました。
	とくし丸、松本商店等の移動商店での買い物を支援します。その他の買い物において、地元商店等を積極的に活用します。	
	地域行事等への参加、地域行事の招致(会場の提供など)、地域と共同しての各種訓練などを実施し、上吉田地区の福祉と利便性の向上に貢献します。	
職員1人ひとりの相談援助技術の向上を図り、質の高い福祉サービスを提供します。	職員研修・勉強会などを実施し、入居者の高齢化・重度化に応じた適切な生活支援のための知識と技術の向上を図ります。	新型コロナウイルス感染症対策として、緊急事態宣言発出中は外出を一時的に制限するとともに、解除後は安全に外出できるための対策を整理し、入居者の生活の質が落ちないように配慮しました。 密を避けるため、集会形式でのひだまり会の実施は見合わせました。その分、清掃や調理などの日常生活の支援に関することや、服薬や健康状態など、個別的な相談支援を重点的に行いました。 2月に支援員会議を行い、次年度に向けて、入居者および業務上の課題を職員間で共有しました。
	物品の購入や施設整備の保守・修繕について適正な管理を行います。職員による日常的な保守点検および修繕を実施します。	
	ひだまり会(入居者自治会)を定期的に実施します。個別の相談に対し、面接や日常の聞き取りを行い、入居者のニーズをくみ上げます。	
「一日でも長く地元地域で暮らしたい」という要望を実現するため、安心・安全な生活を送れるよう支援します。	市民福祉課、包括支援センター、警察署等の関係機関と連携し、入居者の消費活動を守るとともに、防犯意識を高めます。	新型コロナウイルス感染症の対応として、入居者の毎日の検温を実施し、体調の把握に努めました。 上吉田医院の往診は年度末時点で延べ13人の方が対象となり、定期および随時の往診を実施するとともに、上吉田医院と相談の上で、適宜受診支援を行いました。 倉林歯科の往診は延べ4人の方が対象となり、義歯作成や治療、衛生指導の協力を仰ぎました。 3月に夜間想定避難訓練と、防犯研修として特殊詐欺の実態や管内の事故・犯罪発生状況を共有しました。
	上吉田医院、倉林歯科クリニックによる内科・歯科往診を実施します。早朝・夜間帯の職員不在時の緊急事例に対し、関係者間で連携し迅速に対応します。	
	消防・災害・防犯に関する訓練や研修を実施し、防犯意識や安全に対する意識を高め、施設の安全性を向上します。	

居宅介護支援事業所 ひだまり 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
新規事業所として市町村・包括支援センター及び医療機関と関係性を築き、積極的に新規利用者の受け入れを行います。また、市町村からの委託業務等を受託します。	困難ケースや緊急ケースの受け入れを積極的に行い、各個人がその人らしい生活が送れるように支援します。	当事業団居宅支援事業所より、吉田地区在住の23件の利用者を引き継ぎ、開所しました。地域に密着した居宅支援事業所として柔軟な機能を発揮し、開所以降、新たに介護11件、予防9件、合計20件の新規利用者を受け入れ、迅速な対応を行いました。市町村、地域包括支援センター、医療機関等とこれまで築いてきた関係を活かし、各方面から新規の相談を15件受けました。認定調査の依頼も受け、新規事業所の周知を図ることができました。
	年間を通して月28件以上の支援者数を維持します。	
	介護保険委託業務の認定調査を実施します。	
	『介護予防・日常生活支援総合事業』の委託受け入れを積極的に行います。	
介護支援専門員として専門的な知識を深め、ケースワークの技術を高めます。	市町村及び各包括支援センター、医療機関や介護保険事業所との情報交換を行い、更なる連携強化を図ります。	地域性を考慮した支援やサービスの探求を図りました。また、法人内の居宅支援事業所と合同で会議を実施し、情報の共有、ケースワークや専門的知識の向上に努めました。
	地域サービスや新規事業所、インフォーマルサービスの把握を行うことで、ケースワークの質を高めます。	
	介護支援専門員更新研修、県・市町村・各事業所の主催する研修へ積極的に参加し、専門的知識の向上に努めます。	
包括的ケアシステムや地域共生社会を意識し、地域特性に合わせた支援を行います。利用者の抱えるニーズに合わせた支援を行っていきます。	月1回以上法人内における居宅介護支援事業所と合同の会議を行い、情報を共有していきます。	市町村、地域包括支援センターより依頼された困難ケース3件に対しても、積極的に受け入れ、利用者のニーズと地域特性に合わせた支援を実施しました。併設する吉祥苑、上吉田デイサービスと連携を図り、同一敷地内のメリットを生かした支援を実施しました。
	包括支援センター等から依頼された困難ケース等の事例にも積極的に受け入れを行います。	
	「運営基準減算」や「特定事業所集中減算」等の適用を受けないよう適正な事業運営を継続します。	
	利用者のニーズに合わせたサービス利用を柔軟に対応し安心して生活ができるよう支援します。	
	「地域ケア会議」「各包括支援センター主催の研修や勉強会」へ参加します。	
	同一敷地所内の生活支援ハウスや通所介護等の状況の把握を行い、地域に密着した支援を展開していきます。	

ふあいん・ユー 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
事業団のスケールメリットを活かし、安定した支援提供に繋がります。また、利用者支援の質を向上することで、地域他事業所との差異化を図り、地域で選ばれる事業所を目指します。	利用者一人ひとりの心身状況や行動特性などを考慮し、家庭と連携を図りつつ個々に応じた支援を行います。	利用者一人ひとりの心身状況やニーズに合わせ、専門職からアドバイスを受け作業リハビリの提供や運動リハビリを行いました。また、作業訓練として和紙作りをはじめました。工程を利用者が持てる能力に合わせて分け、作業に取り組めるよう支援しました。その他室内レク、外出レクなどの日中活動の様子は、フェイスブックを活用し広く発信しました。
	利用者の持てる能力を引き出し、生活の質の向上・社会的自立に向けた支援をします。	
	家族、関係機関等との連携に努め、地域での生活を維持できるように支援します。	
	地域他事業所との差異化を図るために、利用しやすい環境を整備するとともに、新たなプログラム開発を目指します。	
	広報誌の発行、フェイスブックの活用により広く活動内容を情報発信します。	
人材育成を通し、支援体制のレベルアップを図ります。また、業務負担の偏りを精査し、平準化を図ります。	年間計画に基づき外部研修への参加、職場内研修を実施し、職員の資質向上と意識・ケアの統一を図ります。	定期的にミーティングを開催し、現在の業務における課題を考え、業務が円滑に進むよう改善に努めました。また、職員全体で新型コロナウイルス感染症の感染予防や環境清拭に取り組み、感染対策を徹底しました。
	資格取得に向けた支援体制、OJT・OFF-JT、自己啓発等の行いやすい体制を構築します。	
	現在の業務における課題を考え、各事業所と連携を図り、業務が円滑に進むよう改善やマニュアルの整備等に努めます。	
日常生活が困難な障害者の需要に適切に応え、喜んで利用していただける事業所、選ばれる事業所となり、地域に貢献し、地域のセーフティーネットとしての役割を果たします。	生活介護の各種行事等を通じて地域住民との連携及び協力関係を深めます。	身体的、精神的に障害を抱える方の受け入れを行い、日常生活が困難な障害者の需要に適切に応えることができました。
	体験学習及び実習生、ボランティア団体・個人を問わず積極的に受け入れてまいります。	
	大学生や短大生及び専門学校生の教育実習等を積極的に受入れ、進路等の選択肢の一つになるように支援や相談をしていき、この施設が地域資源の一つとしての認識を深めることにつなげ、地域に開放している事業所を目指します。	

にじいろテラス ゆくる 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村、関係機関と連携を図り、質の高いサービスを提供します。	成長に合わせた支援が提供できるよう、ご家族や特別支援学校、秩父市障がい者福祉課等といった関係機関との連携に努めます。	新型コロナウイルス感染症の影響による休校が長期間となりましたが、児童の生活リズムが大きく崩れないよう、対象期間中は長期休暇と同様の支援を実施しました。必要に応じて在宅支援を強化し、電話での体調確認や、不安の聴き取りなどを行い、家庭、学校、放課後等デイサービスが連携した支援を行えるよう情報の共有を図りました。その他、行政機関、障がい福祉サービス事業者などの関係機関との連携を図り、秩父地域全体の障害児支援の向上に努めました。また、にじいろテラスへの移行時には、保護者をはじめ地域の方々や関係機関向けに内覧会を実施しました。
	開かれた事業所として信頼を得られるよう地域との結びつきを重視し、特別支援学校をはじめとした関係機関と情報の共有を図りながら障がい者福祉の向上に努めます。	
	非常災害訓練、安全点検、防犯訓練を定期的に実施し、安心して過ごせる場を提供します。	
発達障害に対する専門性を持ち家族や児童の立場に立った支援を提供します。	個々の利用児童の希望を叶えるとともに、ご家族の願いを個別支援計画に反映できるよう適切かつ効果的な支援を提供します。	定期的にモニタリングを行い、個々の成長に応じた個別支援計画の見直し、療育支援を実施しました。また、日頃からご家族への言葉かけを意識して、信頼関係の構築に努めました。埼玉県発達障害福祉協会へ入会し、発達障害への裾野を広げると共に、児童一人一人のストレング스에着目した支援を実施しました。支援内容については、一人一人の個性に寄り添い、成功体験を大事にした取り組みを行いました。また、秩父ならではの自然との触れ合いや、体験を大事にした活動を実施しました。事故防止として、ヒヤリハット事例の検討を適宜行い、重大な事故に発展しないよう職員と情報の共有を図りました。広報誌やフェイスブックを活用し、活動内容を広く発信することができました。
	様々な年代の児童が通うという強みを生かし、集団の中でしか学べない、体験、経験を重視した支援をおこないます。	
	多様なニーズにこたえられるよう障害特性についてに研修を適宜おこない職員の資質向上を図ります。	
	児童一人一人のストレング스에着目して、個々の成長に見合った取り組みを実践します。また、また、放課後や長期休暇中の安心できる居場所として、楽しみながら通所できる施設を目指します。	
	家族の要望や相談に対応するため、専門知識の向上に努めます。また、日ごろの状況の報告、連絡、相談を大切にし、ご家族との信頼関係の築きます。	
	定期的に家族懇談会を開催し、児童の詳細な様子の報告や、要望の聞き取りをします。	
	活動内容を広報誌やホームページ等で広く発信します。	
	大事故へと至らないよう、ヒヤリハットの事例検討を適宜おこない事故防止に努めます。	
	個人情報の重要性を職員ひとりひとりが認識し、利用および提供に関して適切に取り扱います。	
多機能型新施設開所にあたり、施設移行を円滑に進めます。	各児童の個性に配慮し、混乱が生じないよう、円滑な施設移行を実施します。	新施設移行に伴い、定員が20名となることによる混乱が生じないよう、小グループでの活動を行うとともに、落ち着いて過ごせる空間づくりを行いました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設見学等は見合わせましたが、感染対策を行いながら、施設のスケールメリットを生かした交流行事を行いました。
	多機能型施設のスケールメリットを生かし、事業所の垣根を超えた交流を図ります。	
	他事業所の見学をおこなうことにより、視野を広げ、既存にとらわれない施設運営を目指します。	

障がい者相談支援センター にじいろ 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
関係機関との連携を強化し、積極的に利用者の受入れを行います。	市町村、医療機関、教育機関、関係事業所へ積極的に足を運び、意見交換や状況確認を行うことで連携を強化します。	各関係機関との連携を密にし、会議や情報交換等を積極的に行い、サービスの効果的な利用に努めました。
	関係機関からの相談に対して、迅速、柔軟な対応をすることで総支援者数140名以上を目指します。	市町村からの相談依頼を積極的に受け、障がい者80名、障がい児60名、総数140名の相談を受け、130名の計画作成を行いました。
	相談実績を積むことでネットワークをさらに強化するとともに、各種ケースの相談に積極的に協力し、相談支援事業所としての機能を最大限発揮します。	
相談援助技術の質を高め、自立支援に向けた支援に努めます。	ライフステージに応じた切れ目のない支援と個人のストレングスを活かしたサービス等利用計画の作成を行います。	児童から成人、障がいサービスから介護サービスへの移行をスムーズに行えるよう、本人、家族、関係機関と連携を図りました。また、本人の強みを活かし、充実した生活が送れるよう支援しました。
	本人の持てる力を最大限発揮し、生き活きと生活できるよう、意見を尊重し、自己決定ができる支援を行います。	本人の持てる力を発揮できるよう、利用者の意見を尊重しながら、その力を最大限活かせるよう援助しました。
	本人が望む生活を実現するために、サービス担当者全体が同じ方向を向いて支援できるよう、定期的に会議の場を設定します。	担当者会議を行い、利用者のニーズ反映に向けた支援を行いました。
	モニタリングを重視し、状態の変化にすぐに対応できるよう支援します。	本人、家族の気持ちを傾聴する時間を増やし、ニーズの掘り下げ、関係の構築に努めました。また、サービスが効果的に行われているか、事業者、関係機関との情報交換を積極的に行いました。
	県、市町村、自立支援協議会等が開催する研修会、勉強会に積極的に参加し、専門性の向上に努めます。	地域で行われる研修会等に参加し、専門性の向上に努めました。
障がい者へのサポートを強化し、地域でできる取り組みを考えます。	地域の社会資源の一つとして認知してもらうとともに、その専門性を地域に貢献できるよう、定期的に障がいに関する相談会等を行います。	利用者、家族に対しては、随時説明を行う機会を作り、情報の提供に努めました。
	新規施設の開設にむけ、関係機関、地域、利用者から情報収集を行い、必要とされるサービスについて実情を元にした提案を行います。	日頃の業務の中で、求められているニーズの整理を行い、今後に向けての情報収集、サービス提案を行いました。
	地域の課題について自立支援協議会等へ提言し、地域全体の障害福祉サービスの底上げを図ります。	事業所内で相談支援員の会議の定期的な開催、自立支援協議会等への参加を通し、課題についての提案を継続して行いました。
	地域等で障がいに関する研修会を実施し、障がいの理解を広めます。	地域住民等に対して、障がいに関する研修会を行い、障がいに対する理解を深めました。

寺尾デイサービスセンター 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
令和2年8月の事業開始に向けて、施設整備においては利用者やご家族または地域の皆さまのご意見をしっかりと受け止め、頼られ愛されるものとなるよう準備を進めてまいります。	令和2年8月より、スムーズに事業の開始が出来るように申請書類の準備を計画的に進めます。	利用環境の整備や必要な物品の購入については、現場職員の意見も取り入れながら、物を精査し導入を進めました。
	設備、必要物品においては、既存のデイサービスの意見も取り入れながら、無駄のない準備を進めます。	
	「にじいろテラス」内覧会の計画を立て、たくさんの方に施設を見学して頂き、様々な意見を集約します	
複合型施設のメリットをいかんなく発揮し、「寺尾デイサービス」を周知して頂くよう、関係機関に積極的な呼びかけを行っていきます。	チラシや広報誌・ホームページ等で広く事業開始の情報発信します。	フェイスブック等を活用しこまめな情報発信を継続しました。
	居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関、家族等へ情報発信を密に行い連携を図ります。	各居宅介護支援事業者や地域包括支援センターには、毎月の実績報告に合わせ、取り組み内容等を報告しました。また、体験利用者を積極的に受け入れ、寺尾デイサービスを認知して頂けるように取り組みました。
	にじいろテラス内の事業所の情報を共有し、各事業所の特色を活かした交流を図ります。	コロナ禍ということもあり、積極的な交流は図れませんでした。ハロウィンやクリスマス等のイベント時には各事業所と連携を図り、短時間で感染対策に配慮しながら交流の場を持ちました。
全職員で現状課題を把握、共有しながら、健全な施設運営を図ります。	職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに努めます。	話しやすい環境作りを心がけ、職員間の会話の機会を多く持ち、課題の把握や目標の共有に努めました。
	毎月のミーティングや毎日の申し送りで、利用者の情報を共有し利用者一人ひとりに寄り添った支援を行います。	毎月のミーティングで利用者個々のカンファレンスを行いました。毎朝の申し送りで、利用者の状況報告を行い、その人に合ったサービスの提供ができるように取り組みしました。
	事業所間相互の協力体制を確立し、各事業所と連携を図り業務の効率化に努めます。	各事業所との連携に努め、情報共有を図りながら、協力体制を確立しました。
	自己啓発等の行きやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制、人材の育成に努めます。	計画に基づき研修を行い、自己啓発、モチベーションアップの機会を作りました。
	制度の動向・方向性を的確に把握し、職員が分かりやすく周知できるよう努めます。	新型コロナウイルス感染症の対応については、法人としての対応策を周知徹底し、混乱が無いように正確な情報把握に努めました。

にじいろテラス 星の子教室 事業報告

事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
令和2年8月の事業開始に向けて、施設整備においては利用者やご家族また地域の皆さまのご意見をしっかりと受け止め、新施設『にじいろテラス』が皆様に頼られ愛されるものとなるよう準備を進めてまいります。また、利用者のニーズに応じた備品等の選定を行い施設機能の充実を図るとともに、人材の確保と資質の向上に努め、質の高いサービスが提供できるよう取り組みます。	秩父市と協力し、スムーズな事業移管ができるよう準備します。	秩父市からの事業移管にあたり、保育士の継続雇用と秩父市からの職員派遣、備品の譲り受けにより、従来の療育内容を継続することができました。
	今までの活動を継続するとともに、施設設備を最大限利用した新たな活動を取り入れていきます。	なかよしホール、わんぱくテラスでの感覚統合遊具、ボルダリングなど、新たな活動を取り入れました。
	平均利用率80%以上を目指します。	施設開所後も継続利用してもらうと共に、1市4町から新規児童を受け入れ平均利用率97%でした。
事業運営においては、複合型施設のメリットを活かし、放課後等デイサービス「ゆくる」の機能連携により、障がいを持つ子どもたちの発達を総合的かつ継続的に支援します。また、生活介護事業「ふあいん・ユー」との連携により、幼児・学童期から成人期まで通ずる幅広い支援を実現します。障がい者支援事業と高齢者事業である「寺尾デイサービス」との交流を持ち、世代やその方の置かれている状況など様々なものを超えて共に過ごすことで、高齢者の持つ経験や人生の厚み、子どもたちの持つ活力等が相互に作用する場を目指します。こうした実践により、『にじいろテラス』の名称に込めた思いである共生を目指してまいります。	感染症対策に取り組みながら、多世代での交流の場を検討します。	新型コロナウイルス感染症対策については、児童・保護者・職員の検温、体調確認等を徹底し事業を継続しました。感染防止対策のため、積極的に社会交流する機会は減少しましたが、少人数や個別対応で世代間の交流を図りました。
	複合型施設のメリットを活かし、サービスをまたいだ支援を行います。	3名の保育士が放課後等デイサービスと兼務し、就学後の児童を継続して支援することができました。また、施設内の相談支援従事者と密接に連携を図りながら、児童・家族の総合的な支援を行いました。
『にじいろテラス』での障がい者相談事業の取り組みを通じて、積極的に地域に出向き多くの方と触れ合うことで地域ニーズの掘り起こしを行います。こうして把握した地域課題の改善に向け、有する専門性と施設機能を最大限活用します。また、地域の方が気軽に立ち寄れる施設づくりに取り組み、地域の皆様と共に誰もが暮らしやすい地域作りについて考えてまいります。	地域の中核的な福祉施設として、地域の困りごとや相談に積極的に応じます。	行政機関をはじめ福祉関係者と連携を図り、秩父市46名、横瀬町2名、小鹿野町5名、皆野町4名、長瀬町3名の児童を受け入れることができました。
	他法人の取り組みなどを参考にし、新たな公益的な取り組みとしてこども食堂の運営を検討します。	コロナ禍で活動を制限せざるを得ない状況でしたが、吉田地域で活動しているこども食堂の様子など情報収集を行いました。